



早期発見・早期治療のために 第30回

「がん検診」を受けましょう

現代の日本の死亡原因第1位となる「がん」。定期的に検診を受診して早期発見の機会を逃さないことが大切です。

がんは、早期に発見して早期に治療すれば死亡率を下げる事ができます。しかし、近年、新型コロナウイルス感染症の流行で受診率が低下してしまっています。検診を受けず、がんの発見が遅れると、治せたりはしない病変が治せない段階にまで進行してしまう可能性があるため、定期的に検診を受診して早期発見の機会を逃さないことが大切です。

国推奨のがん検診とは

国では、科学的な根拠に基づき、胃がん・子宮頸がん・肺がん・乳がん・大腸がんの5つの検診を推奨しています。町では、さらに、前立腺がん検診を含めた

6つの検診を実施しており、対象年齢に初めて達した人には受診録を送付しています。対象年齢に達したら、自分が受けられる検診が何か、通知をもとに確認してみましょう。

がん検診のメリット

がん検診を受ける最大のメリットは、早期発見・早期治療による救命だけではありません。自覚症状をきっかけに進行がんが見つかるよりも軽い治療で済む場合が多く、経済的にも時間的にも負担が少なく済み、今までの生活を維持しやすくなります。また、前がん病変を発見することもあるため、今後がんになることを防ぐこともできます。

がん検診の判定結果について

皆さんは、判定結果をきちんと見ることができていますか。「異常なし」か「異常あり」を見ただけで終わっていないでしょうか。もちろん、判定結果が「異常なし」の人は、次回のがん検診までは普段通りの生活を送ることで問題ないでしょう。しかし「要精密検査」の人は、がんの疑いがあるため、必ず精密検査を受ける必要があります。判定結果には、次に何をすべきなのか必ず記載されているので、その指示に従うことが大切です。町で令和3年度に実施したがん検診では、要精密検査者数265人のうち、25%にあたる67人が精密検査を受けてい

ませんでした。がん検診の目的は、早期発見・早期治療によって、がんによる死亡を防ぐことです。受診して終わりではなく、必ず精密検査を受けましょう。

がん予防と生活習慣の関係

禁煙・適正体重の維持・節酒・バランスのとれた食生活・運動。これらの生活習慣がある人は、将来がんになるリスクが約40%低くなる。国立がん研究センターの研究で明らかになっています。日ごろから健康的な生活習慣を心がけることは、がん予防にもつながります。定期的ながん検診と良い生活習慣を心がけて、健康的な体を維持しましょう。

がん検診 Q&A

Q 症状がある場合どうすれば？

A. がん検診は症状のない人が対象です。症状がある場合には早めに医療機関を受診してください。

Q 精密検査はどこで受ける？

A. がん検診の種類によって受診する科が異なります。一般的には次のとおりです。

- [消化器内科] 胃がん・大腸がん検診
- [呼吸器内科] 肺がん検診
- [婦人科] 子宮頸がん検診
- [婦人科・乳腺外科] 乳がん検診
- [泌尿器科] 前立腺がん検診

※検診を受けた医療機関やかかりつけ医、役場にご相談ください。

R4 桑折町各種健(検)診日程

問い合わせ 健康福祉課 健康増進係 ☎582-1133

完全予約制 受付期限 9月15日まで

町では、9月と10月に実施する特定健診と一緒にがん検診を受けることができます。がん検診は加入している保険の種別を問わないため、町内にお住まいの町国民健康保険加入者・後期高齢者医療加入者・社会保険加入者・生活保護世帯者が受診できます。

予約コールセンター ☎050-3659-6178

日 程	
9月21日(水)	10月1日(土)
9月22日(木)	10月3日(月)
9月26日(月)	10月4日(火)
9月29日(木)	10月5日(水)
9月30日(金)	10月6日(木)
	10月7日(金)
	10月8日(土)

予約・内容の詳細は町HPをチェック



毎年9月は「世界アルツハイマー月間」です

町の取り組み

出張オレンジカフェもも

町地域包括支援センターの職員が地域のサロンなどに出向き、認知症の人やその家族、地域の皆さんと交流したり情報交換をしたりします。

認知症サポーター養成講座

認知症の人やその家族を支援する「認知症サポーター」になるための養成講座です。町内会や学校、会社の研修などでの開催も可能です。

認知症の理解を広げるために

1994年「国際アルツハイマー病協会」が、世界保健機関(WHO)と共同で9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定。それに合わせ毎年9月には、世界中で認知症への偏見をなくし、理解を広げるための活動が繰り広げられています。

問い合わせ 町地域包括支援センター ☎582-1188 / 健康福祉課 福祉介護係 ☎582-1134

表2 がん診療連携拠点病院等における総合病期別の10年相対生存率※(%) (2008年診断例)

ステージ	I	II	III	IV
胃がん	90.9	59.3	34.6	6.9
大腸がん	93.6	83.9	69.4	11.6
非小細胞肺がん	72.4	35.2	13.5	2.0
女性乳がん	99.1	90.4	68.3	16.0
子宮頸がん	92.9	71.9	54.6	16.9
前立腺がん	100.0	100.0	100.0	44.7

参照：がんの統計2022

表1 がん罹患数の順位(2019年)

	1位	2位	3位
総数	大腸	肺	胃
男性	前立腺	大腸	胃
女性	乳房	大腸	肺

参照：国立がん研究センター がん統計

※相対生存率とは、がん以外の死因によって死亡する確率を補正した生存率のこと